

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|----------------|----------------|-------|-------|--------|
| 27-155 | 高等学校 | 情報 | 社会と情報 | 第1～3学年 |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教科書名 | | |
| 9 開隆堂 | 社情 313 | 社会と情報 | | |

1. 編修の趣旨及び留意点

① 編修の趣旨

学習指導要領の趣旨を踏まえた上で、共通教科「情報」の目標を達成できるよう、下記のような趣旨のもとに編修を行った。

- 情報化の進展に主体的に対応できるように、内容を精選し、的確で分かりやすい記述を心がけ、情報および情報技術の基礎・基本が確実に習得できるようにする。
- 情報に関する科学的な見方や考え方が養えるように、説明においては、分かりやすく丁寧な記述と工夫を心がける。
- 社会において情報が果たしている役割や影響が理解できるように、生徒の身近な例を取り上げたり、豊富な例示をおこなうなどの工夫をする。
- 学習に対して生徒が見通しを持って主体的に取り組めるように、学習項目ごとの冒頭に学習の目標を記述した。
- 実習や課題などの実践的な学習活動に取り組みやすくするために、学習活動の手順を示し、学習活動が見えるような工夫をする。
- 知的好奇心を喚起し意欲的に学習できるように、学習意欲を高められる写真やイラスト、図表、コラムなどを多く用いる。
- 特定の機器に左右されない公正公平な教育的配慮をする。
- 紙面のレイアウトやデザイン、記述のしかたについて、見やすく、読みやすく、わかりやすく、使いやすいものとなるようにする。

② 留意点

上記の編修の趣旨のもとに、さらに下記のような点に留意して編修を行った。

- 情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性などの理解を通して、それらを効果的に活用する能力及び情報モラルを身につけ、情報社会に参画する態度を育成するための知識・技能や情報の科学的な理解などが確実に身につくように工夫した。

- 主体的に情報社会に参画する態度を育成するために、学習の動機づけや問題解決的な学習を重視し、情報社会における個人の責任及び情報化と社会に関する考え方や学び方が分かるように配慮した。
- 普遍的な情報活用能力を育成するため、人と情報とコミュニケーションのかかわり、情報社会での生き方・あり方を常に意識した学習展開を工夫した。
- 知的好奇心を喚起し学習意欲を高めるために、可能な限り視覚的表現を取り入れ、しかも美的で、内容の本質の理解を助けるのに効果的な表現を工夫した。
- 情報及び情報技術の基礎・基本が生活に生かされるようにするため、生徒の身近な事象を扱い、具体的な問題解決ができるような題材を取り上げた。

2. 編修の基本方針

教育基本法の第2条に示される教育の目標を達成するために、共通教科「情報」の編修基本方針を以下のように設定した。

- 幅広い知識と教養の基盤となる、情報および情報技術の基礎的・基本的な知識や技能を、確実に習得できるようにする。
- 生活の中の真理を追究できるようになるために、科学的な根拠をもとに、情報を理解・習得できるようにする。
- 情報に関する知識・技能の習得や理解を通して、情報社会に積極的に参画する態度が育つようにする。
- 情報モラルの学習を中心に、情報社会における豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるようにする。
- 情報社会における正義と責任について考えるとともに、主体的に情報社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにする。
- 情報社会における他者とのかかわり方を学ぶとともに、プレゼンテーションや問題解決など協力しながら学習を進めることを通して、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことができるようにする。
- 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する」問題解決的な学習を通して、創造性や自主性及び自立性を養うことができるようにする。
- 情報社会の進展が環境の保全に寄与する側面を知ることを通して、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるようにする。
- 信ぴょう性・信頼性の高い情報を選択できる能力をはぐくむとともに、真理を求める態度を養うことができるようにする。
- コミュニケーション手段の発達の歴史を通して、先人への敬意、伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。
- 情報社会の進展により国際的な問題などより大きな問題解決に取り組むことができることを知り、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにする。

3. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 箇所（ページ） |
|--------------------|--|-------------|
| 教科書全体を通して | ○基礎的・基本的な知識や技能が，過不足なく，確実に習得できるようにした。（第1号） | すべてのページ |
| | ○さまざまな問や実習・課題を通して，工夫し，創造する態度を育めるようにした。（第2号） | 問や実習・課題の各所 |
| | ○イラストや写真では，男女の平等などに留意した。（第3号） | すべてのイラスト・写真 |
| スタート 情報社会とわたしたち | ○科学的な根拠をもとに，情報やメディアの特徴を理解・習得できるようにした。（第1号） | p. 6～9 |
| | ○社会・職業と情報とのかかわりについて取り上げ，勤労観を養えるようにした。（第2号） | p. 4～5 |
| ユニット1 情報モラル | ○情報社会を生きる上でのモラルを，事例を通して学習できるようにした。（第1号） | p. 10～12 |
| | ○情報モラルや情報格差などに関する記述を豊富に取り上げ，学習できるようにした。（第3号） | p. 10～12 |
| ユニット2 コミュニケーション | ○科学的な根拠をもとに，情報や情報技術を理解・習得できるようにした。（第1号） | p. 26～27 |
| | ○社会・職業と情報とのかかわりについて多く取り上げ，勤労観を養えるようにした。（第2号） | p. 28～29 |
| | ○コミュニケーション手段の発達の歴史を通して，先人への敬意，伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。（第5号） | p. 28～29 |
| ユニット3 デジタル化 | ○科学的な根拠やしくみの理解をもとに，情報や情報技術を理解・習得できるようにした。（第1号） | p. 40～49 |
| | ○情報通信技術のしくみを知ることを通して，技術を発達させてきた先人への敬意を育めるようにした。（第5号） | p. 40～49 |
| ユニット4 情報の表現と伝達 | ○デジタル作品の制作活動全体を通して，知的財産を尊重し，活用する態度を養えるようにした。（第2号） | p. 56～61 |
| | ○デジタル作品の制作活動を通して，協力を重んずる態度，自他の敬愛，男女の平等などを養えるようにした。（第3号） | p. 56～61 |

| | | |
|-----------------------------------|--|------------|
| | ○情報による，他の国の人々や障がいがある人たちとの共生の視点を取り上げた。 (第4号) | p. 60 |
| ユニット5 情報通信ネットワーク | ○科学的な根拠やしくみの理解をもとに，情報や情報技術を理解・習得できるようにした。(第1号) | p. 72～79 |
| | ○情報通信技術のしくみを知ることを通して，技術を発達させてきた先人への敬意を育めるようにした。(第5号) | p. 72～79 |
| ユニット6 情報セキュリティ | ○科学的な根拠やしくみの理解をもとに，情報や情報技術を理解・習得できるようにした。(第1号) | p. 86～93 |
| | ○社会・職業と情報とのかかわりについて多く取り上げ，勤労観を養えるようにした。(第2号) | p. 86～93 |
| | ○情報セキュリティに関する事例を豊富に取り上げ，学習できるようにした。(第3号) | p. 86～93 |
| ユニット7 情報社会における法 | ○知的財産権や著作権，個人情報の学習を通して，個人の価値を尊重する態度を養えるようにした。(第2号) | p. 100～111 |
| | ○情報に関する法の記述を豊富に取り上げ，学習できるようにした。(第3号) | p. 100～111 |
| ユニット8 情報システム | ○社会・職業と情報との関わりについて多く取り上げ，勤労観を養えるようにした。(第2号) | p. 118～125 |
| | ○情報システムが国境を越えてネットワーク化されたことによる他国理解や，共生，世界平和への寄与などについて取り上げた。(第5号) | p. 118～125 |
| ユニット9 問題解決 | ○職業を意識した問題解決の事例や実習を通して，勤労観を養えるようにした。(第2号) | p. 134～141 |
| | ○問題解決の学習を通して，他者と協力する態度を養うことができるようにした。(第3号) | p. 134～141 |
| ゴール 望ましい情報社会へ | ○これからの情報社会における個人の責任について考え，主体的に参画する態度を養えるようにした。(第3号) | p. 146～147 |
| | ○情報システムが与える恩恵と課題の学習を通して，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号) | p. 146～147 |
| | ○情報による，他の国の人々や障害がある人たちとの共生の視点を取り上げた。(第4号) | p. 146～147 |
| | ○情報システムが国境を越えてネットワーク化されたことによる他国理解や，共生，世界平和への寄与などについて取り上げた。(第5号) | p. 146～147 |

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条に示される義務教育の目的や学校教育法第21条に示される義務教育の目標などを達成するために、編修上特に意を用いた点や特色は、以下の通りである。

- 教科書の最初の内容において、近い将来の生活の様子を通して、社会と情報の学習に対する意識付け、興味・関心が引き出せるようにするとともに、勤労を重んずる態度を養えるように編修した。
- 全体の学習の最後に、これからの情報社会の、課題や展望を示すことで、主体的に社会に参画し、その発展に寄与できる態度を養えるようにした。
- 情報モラルに関する事例を豊富に取り上げることで、情報社会を生きる上での公正な判断力並びに公共の精神を育み、主体的に情報社会に参画しようとする態度を養えるようにした。
- 情報と産業とのかかわりについて理解が深まるように、随所に具体例を掲載して編修を行った。
- 制作品の構想を図や表を用いてわかりやすく表現するとともに、成果の発表や自己評価、相互評価を行うなどの言語活動を充実させ、言語能力を養えるように配慮した。
- 科学的な根拠を伴い情報通信技術を理解できるような、実習・課題を適宜取り上げた。特に、実習においては、コンピュータを用いないアンプラグドの内容を取り入れることで、コンピュータのしくみを体験的に理解できるようにした。
- 情報を適切に活用できるように、コンピュータや情報通信ネットワークのしくみなどを科学的な根拠を元に理解できるようにするとともに、情報モラルに関する内容も充実を図った。
- 情報通信技術の発達の歴史を取り上げることで、先人たちの智恵や技術の素晴らしさについて知るとともに、他国を尊重する態度を養えるようにした。
- メール依存やテクノストレスなど、情報機器の取り扱いによって生じる心身への影響について学ぶことを通して、健康、安全で幸福な生活のために必要な習慣を養えるようにした。
- dpiやbpsなど、情報社会の進展にともない目にするようになった単位の表すものや、接頭語に関する技術を取り上げることで、数量的な関係を正しく理解し、処理できるように基礎的な能力を養えるようにした。

編 修 趣 意 書

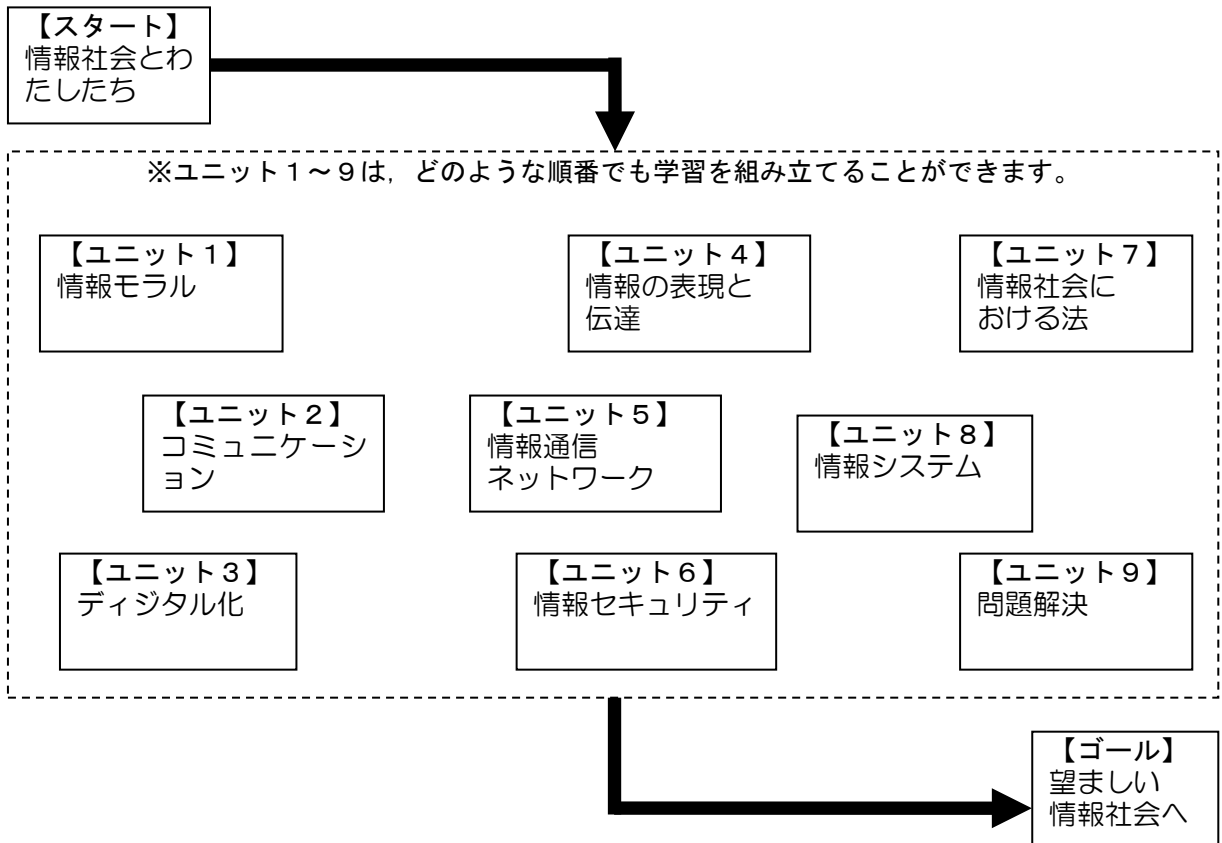
(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|----------------|----------------|----------|-------|--------|
| 27-155 | 高等学校 | 情報 | 社会と情報 | 第1～3学年 |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 9 開隆堂 | 社情 313 | 社会と情報 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

<< 本教科書の基本構成 >>

- ★各学校の指導計画に即して教科書を利用しやすくするために、学習指導要領で定められた内容を明確でわかりやすい9つのまとまり（ユニット）に分け、ユニットの順番を入れ替えても使用できるようにしました。
- ★スタートの内容として「情報社会とわたしたち」を設け、社会と情報の学習の前提となる知識や考え方を学べるようにしました。また、ゴールの内容として「望ましい情報社会へ」を設け、これからの情報社会における課題や展望を示すとともに、これからの情報社会を生きるための態度を育めるように配慮しました。



- ★各ユニットの扉ページには、ユニットごとの学習の「ねらい」を記載し、目標を持って学習できるようにしました。
- ★各学習項目内の構成は、情報の知識と技能を確実に習得できるようにするため、学習の目標（タイトル横の吹き出し部分）を明確にすることで興味・関心を喚起した後、本文文章や図表・写真などの資料で基礎的・基本的な内容を習得する、という流れを基本としました。
- ★ユニット末では、「要点の確認」や「実力問題」を取り上げ、学習の整理と定着ができるようにしました。

<< 基礎・基本の重視 >>

- ★本文の記述は、基礎・基本と参考の区分を明確にし、学習内容の精選と重点化が図れるようにしました。特に基礎・基本となる内容については、理解に必要な内容を的確に記述することを心がけ、文体も敬体表記にして、親しみを持って学習できるようにしました。
- ★基礎・基本的内容の理解を助けるために、分かりやすい図版・イラスト・写真を多数掲載しています。特に「情報モラル」については、生徒が身近に感じられる「事例」をイラストで示すことで、自分自身の問題として捉えられるように工夫しました。
- ★情報に関する用語は、平易な表現を用いるように配慮しましたが、平易な用語に置き換えができないものについては、本文中や欄外の側注などで注釈を加えました。
- ★本文中の重要な用語はゴシック体で表記し、注意を喚起するようにしました。
- ★学習効果を高めるために、「問」・「情報 BOX」・「参考」・「Link」・「情報モラル Link」などのマークを使用し、学習活動や提示した資料の性格や扱い方などが分かるように工夫しました。
- ★必要に応じてコラムを設け、本文の参考となる内容や話題性のある内容などを掲載しました。
- ★実習・課題の題材は、一般的に利用している基本的なアプリケーションソフトウェアで学習できるように配慮しました。
- ★巻末資料では、「情報関連法令資料」や「用語集」を充実して取り上げました。
- ★各学習項目の冒頭には「学習の目標」を記述し、生徒が見通しを持って学習を進められるように配慮しました。また、ユニット末には「要点の確認」を設け、基礎・基本の確実な定着を図れるようにしました。
- ★「実習・課題」を通して、学習内容を実践的・体験的に身につけることができるように工夫しました。

<< 伝統文化の取り扱いの工夫 >>

- ★「2 コミュニケーション」では、コミュニケーション手段の歴史を取り上げており、先人たちの智恵が情報技術を発達させてきたことについて学習できるようにしました。

<< 情報モラルの重視 >>

- ★生徒に確実に教えたい「情報モラル」や「情報セキュリティ」、「情報社会における法」については、生徒が身近に感じられる「事例」をイラストで示すことで、わかりやすく、また興味・関心を持って学習ができるようにしました。本文の関連各所には「情報モラルLink」マークを付して、関連ページを参照できるようにしました。

<< 造本・体裁上の工夫 >>

- ★「Link」マークを用いて、他の内容と関連づけて学習できるようにしました。
- ★内容のまとめりごとに基本となる色を変え、奇数頁には「爪見出し」を設けてページを開きやすくするとともに、全体のどの部分を学習しているかが常に分かるように工夫しました。
- ★カラーバリアフリーデザインに配慮するとともに、環境保全の一環として、印刷インキには環境にやさしい大豆油インキを、用紙には再生紙を使用しました。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | | 学習指導要領 の内容 | 箇所 (ページ) | 配当 時数 |
|-------------|-------------------------|---------------|-------------|----------|
| ユニット名 | 項目名 | | | |
| 情報って何だろう？ | | (1)ア | 前見返し1～2 | - |
| もくじ | | - | 前見返し3, 1 | - |
| 情報社会とわたしたち | ①情報とわたしたちの生活 | (3)ア | 4～5 | 1 |
| | ②情報 | (1)ア | 6 | |
| | ③メディア | (1)ア | 7 | |
| 1 情報モラル | ①社会にあふれる情報 | (3)ア | 10 | 5 |
| | ②情報化の影響と課題 | (3)ア | 11～15 | |
| | ③情報の信ぴょう性と信頼性 | (1)ア | 16～18 | |
| | ④情報の信ぴょう性と信頼性の 評価 | (1)ア | 19 | |
| 2 コミュニケーション | ①コミュニケーションとその過程 | (2)ア | 26～27 | 8 |
| | ②コミュニケーション手段の歴史 | (2)ア | 28～29 | |
| | ③通信サービスによるコミュニ ケーション | (2)ア | 30～31 | |
| | ④効果的なコミュニケーション 手段の選択 | (2)ウ | 32～33 | |
| 3 デジタル化 | ①デジタル情報 | (1)イ | 40 | 7 |
| | ②情報の量の基本単位 | (1)イ | 41 | |
| | ③数値や文字の表現方法 | (1)イ | 42 | |
| | ④音のデジタル化の方法 | (1)イ | 43 | |
| | ⑤画像のデジタル化の方法 | (1)イ | 44～45 | |
| | ⑥動画の表現方法 | (1)イ | 46 | |
| | ⑦大容量のデータを扱うときの 技術 | (1)イ | 47～48 | |
| | ⑧デジタル化された情報の特徴 | (1)イ | 49 | |

| | | | | |
|---------------------|------------------------|------------|---------|----|
| 4 情報の表現と 伝達 | ①情報の伝達 | (1)ウ | 56 | 14 |
| | ②情報の収集と加工・統合 | (1)ウ | 57 | |
| | ③情報の表現の工夫 | (1)ウ, (4)イ | 58~60 | |
| | ④表現した情報の評価と改善 | (1)ウ | 61 | |
| | ⑤適切な情報の伝達 | (2)ウ | 62~65 | |
| 5 情報通信ネットワ ーク | ①情報通信ネットワーク | (2)イ | 72~73 | 8 |
| | ②情報通信ネットワークのきまり | (2)イ | 74~75 | |
| | ③データの道のり | (2)イ | 76~77 | |
| | ④インターネット上のサービスのし くみ | (2)イ | 78~79 | |
| 6 情報セキュリティ | ①セキュリティの確保 | (3)イ, (4)ア | 86~87 | 6 |
| | ②事故や災害, 犯罪への対応 | (3)イ, (2)イ | 88~89 | |
| | ③ネットワークのセキュリティ 対策 | (3)イ, (2)イ | 90~93 | |
| 7 情報社会における 法 | ①知的財産権 | (3)ウ | 100~101 | 5 |
| | ②著作権の適切な利用 | (3)ウ | 102~103 | |
| | ③プライバシーと法 | (3)ウ | 104~107 | |
| | ④情報社会を支えるさまざまな法 | (3)ウ | 108~111 | |
| 8 情報システム | ①産業における情報システム | (4)ア | 118~119 | 5 |
| | ②交通の情報システム | (4)ア | 120 | |
| | ③防災の情報システム | (4)ア | 121 | |
| | ④そのほかの情報システム | (4)ア | 122~123 | |
| | ⑤情報システムの連携 | (4)ア | 124~125 | |
| 9 問題解決 | ①問題と問題解決 | (4)ウ | 132~133 | 10 |
| | ②問題解決の流れ | (4)ウ | 134~139 | |
| 望ましい情報社会へ | ①情報システムの恩恵と課題 | (4)ア | 146~147 | 1 |
| | ②情報社会を創造するわたしたち | (3)ア | 148~149 | |
| 巻末資料 | 2進数の計算・ディベート | (1)イ | 152~153 | - |
| | 法令集 | (3)ウ | 154~157 | |
| | 用語集 | - | 158~165 | |
| タブレット端末の各部名称と基本操作の例 | | - | 後見返し1 | - |
| キーボード配列, キーの読み | | - | 後見返し2~3 | - |
| | | | 計 | 70 |